

## 岐阜県内におけるオオクチバス *Micropterus salmoides* の分布の実態 - II

岡崎 稔・浅野篤志・荒井 真

The Distribution of Large Mouth Bass  
*Micropterus salmoides* in Gifu Prefecture-II

Minoru OKAZAKI・Atusi ASANO・Makoto ARAI

オオクチバスは、ルアーフィッシングの対象魚として、近年我が国の温水域の湖沼・河川等において、生息分布が拡大する傾向が見られ、また、魚食性が強いため他の有用魚種に対する食害が懸念されている。本県においても、移植の記録はないにもかかわらず各地域で生息が確認され、漁業協同組合等で問題となっている。

全国湖沼河川養殖研究会においても、外来魚資源の取り扱いと在来魚資源の保護管理の両面について、全国的な実態を調査している。本報告は、1986年と1989年に県内の実態調査を実施し、まとめたものである。

### 調査の方法

県内の漁業協同組合に対して、アンケートによってオオクチバスの生息状況を照会するとともに、関係市町村からも情報の提供を受けて、その資料に基いて整理し、とりまとめた。

### 結果および考察

県内におけるオオクチバスの生息分布の範囲を図および表に示した。なお、その地域別の概要は、以下のとおりであった。

#### 1. 東濃地域

池沼または人工湖での分布は、恵那市と恵那郡の9地点、中津川市の6地点、瑞浪市の3地点、

表 岐阜県内におけるオオクチバスの生息分布の実態

地 域	湖沼・河川名	所 在 地	見 発 時 期 (年)	水面の種類	満水位 標 高 (m)	水 面 積 (m <sup>2</sup> )	平 均 水 深 (m)	表層水温 (°C)		
								最 高	最 低	
東	御大典池	多治見市	—	農業溜池	165.0	45,000	*13.0	—	—	
	論地池	土岐市駒知町旭	—	農、防溜池	—	35,000	* 8.0	—	—	
	防災溜池	肥田町	1979	防災溜池	350.0	3,000	5.0	25.0	0.0	
	日吉防災ダム	瑞浪市日吉町	—	農業溜池	382.5	57,000	10.0	—	—	
	松野湖	n 松野	1985	農業溜池	325.8	340,000	20.0	30.0	4.0	
	竜吟湖	n 釜戸町	1987	防災溜池	413.6	11,900	10.0	22.0	0.0	
	神谷池	中津川市駒場西山	1976	農業溜池	364.0	55,000	2.5	28.0	0.0	
	ひょうたん池	n	1976	n	342.0	100,000	2.0	28.0	4.0	
	第四堀	n n	1979	n	340.0	9,750	1.4	28.0	0.0	
	会所沢池	n n	1976	n	365.0	10,000	3.0	25.0	5.0	
	松田大堤	n 松田区	1976	n	535.0	50,000	2.6	20.0	0.0	
	根の上湖	n 千賀野	1987	n	—	80,000	*10.3	—	—	
	大井ダム	恵那市大井町奥戸	1978	多目的ダム 農業溜池	258.4 320.0	1,460,000	3.8 —	23.0	2.0	
	丸池	n	—	n	304.5	—	2.5	—	—	
濃	丸池第一溜池	n 立瀬沢北	—	n	900.0	139,000	*16.5	—	—	
	第一耕地整理一号溜池	n 東野	1988	n	—	21,000	3.0	—	—	
	保古の湖	n 岩村町富田	—	n	—	10,000	3.0	—	—	
	別根第一溜池	n	—	n	550.0	160,000	8.0	—	—	
	保根第二溜池	n 坂下町上野	—	n	—	2,700,000	30.0	26.0	0.0	
	花の湖	n 中原村	1976	多目的ダム 発電ダム	298.0 209.0	390,000	15.6	26.0	4.0	
	矢作ダム	n n	1976	n 河川	—	—	—	—	—	
	矢作第二ダム	n n	—	n	—	—	—	—	—	
	矢作川	n n	—	n	—	—	—	—	—	
	宮池	海津郡海津町西小島	—	溜池	—	24,326	—	—	—	
	菅野の池	n 菅野	—	n	—	20,281	—	—	—	
	大池	n 五町	—	n	—	60,110	—	—	—	
	きろ池	n 深浜	—	n	—	—	—	—	—	
大	帆引池	n 新田	—	n	—	55,629	—	—	—	
	下り池	n 帆引新田	—	n	—	80,525	—	—	—	
	十三村落江	養老郡養老町	—	n	—	—	—	—	—	
	木曾川	海津郡海津町	1976	農業溜池	—	—	—	—	—	
	長良川	n	1978	河川	0.0	—	4.0	25.0	4.6	
	揖斐川	n	—	n	0.0	—	4.0	26.5	6.4	
ji	前川	n	—	n	—	—	—	—	—	
	木江川	n	1978	n	0.0	—	4.0	33.0	7.0	

\* 印は最大水深、一印は不明である。

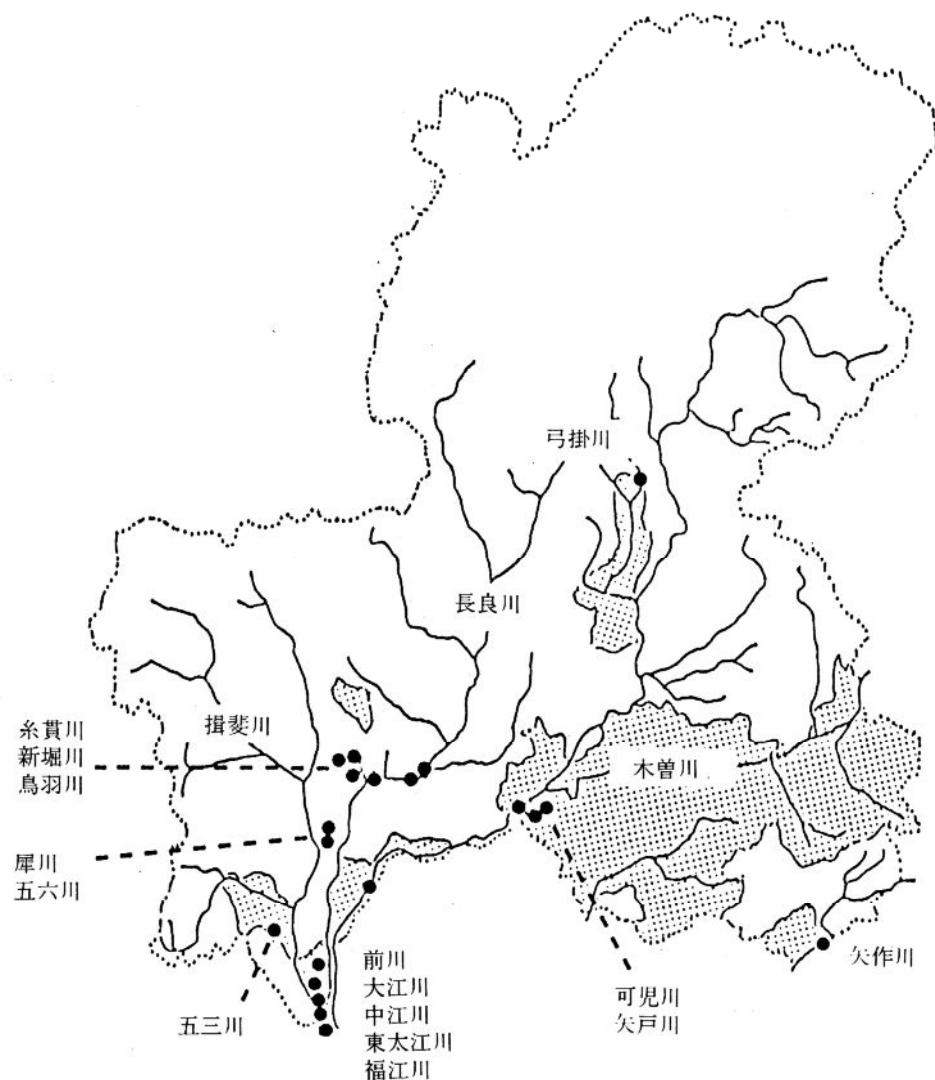


図 岐阜県内におけるオオクチバスの生息分布範囲

注 ■：池沼、人工湖で生息の確認された市町村  
●：河川における生息地点

土岐市の2地点、多治見市の1地点の合計21地点と矢作川であった。最初に発見された時期は、1976年が6地点、1978年が1地点、1979年が2地点、1985年以後が4地点、時期不明が9地点であった。

1988年に生息が確認された保古の湖では、1980年頃から毎年ワカサギ卵を500万粒程度放流し、それを観光資源としている。ワカサギの

漁期は、10月から2月にかけての5ヶ月間で約5,000人の遊漁者によって、50万尾程度の漁獲量があったが、1985年頃から漁獲量が減少し最近は特にその傾向が強くなっていることから、オオクチバスの食害との関連が考えられるとしておおり、関係者はその対策に苦慮している。

矢作ダム湖では、1976年に生息が確認され、現在は再生産も認められ、増加の傾向が見られ

るが、生息魚種の組成の大幅な変動は見られないとのことであった。また、ここでのオオクチバスの漁獲は、年間約150人の遊漁者によって400尾(50kg)程度であった。漁法は、ルアーフィッシングがほとんどで、ダム湖のか湛水域に多く遊泳しているが、時期によってはバックウォーター域でアユを追いかけている個体が目撃されることであった。

## 2. 大垣地域

池沼または人工湖での分布は、海津郡が6地点、養老郡が1地点の合計7地点と河川では木曽川、長良川、揖斐川、前川、大江川、中江川、東大江川、福江川、五三川の9河川であった。

最初に発見された時期は1976年が1地点、1978年が3地点の他に時期不明が12地点であるが、不明事例の多い海津郡一帯は河川と溜池が水路で通じあっている地形であるという特殊性から、比較的早い時期に生息域になったとのことであった。

河川における分布の状況は、海津郡海津町以南の木曽川、長良川、揖斐川本川の入江及び水の淀んだ場所でみられ、前川、大江川、中江川、東大江川、福江川、五三川の各支川では河川全域であった。海津町一帯の河川での生息量は、現在やや減少の傾向が見られるが、1985年から1987年頃にかけて一年間に約300人の遊漁者が入川したが、漁獲量は不明であった。

## 3. 岐阜地域

池沼または人工湖での分布は、関市の4地点、本巣郡、山県郡、羽島郡の各1地点の合計7地点と河川では木曽川、長良川、糸貫川、犀川、

新堀川、五六川、鳥羽川の7河川であった。最初に発見された時期は、1976年が3地点、1977年と1978年が各2地点、時期不明が12地点であった。

河川における分布は、木曽川では羽島郡川島町以南、長良川では岐阜市芥見以南のそれぞれの入江および水の淀んだ場所であったが、糸貫川、犀川、新堀川、五六川、鳥羽川の各支川では河川全域であった。長良川本川の生息量は、1985年頃に比べるとやや増加の傾向を示すが、生息が確認される前と現在の生息魚種の組成および漁獲量は大差が見られないとのことであった。

## 4. 可茂・益田地域

池沼または人工湖での分布は、可児市と可児郡の4地点、美濃加茂市の3地点、加茂郡の3地点、益田郡の1地点の合計11地点と河川では木曽川、可児川、矢戸川、弓掛川の4河川であった。最初に発見された時期は、1976年と1979年および1981年がそれぞれ1地点、1986年が2地点、時期不明が10地点であった。

河川における分布は、木曽川は加茂郡坂祝町勝山以南の本川、可児川は可児市広見町付近のそれぞれの入江と水の淀んだ場所に見られ、矢戸川は可児川との合流点付近、弓掛川は岩屋ダム湖の湛水域から上流約4kmの弓掛堰堤までが分布の範囲であった。

岩屋ダム湖では、1986年に確認されて以来、ダム湖の全域および弓掛川で遊泳しているが、時期によってバックウォーター域または弓掛川でアユを追いかけている個体が目撲され、また、

コイ釣用の撒餌にオオクチバスの稚魚が集まるところから、生息量は年々増加の傾向にあると考えられるが、現在のところ生息魚種の組成に変化は認められないとのことであった。

オオクチバスの生息状況は、1980年の立川<sup>1)</sup>によると県南部の4市3郡の12の池沼または人工湖と5河川の19地点に分布し、各地点で生息が初めて確認された時期は1976年が8地点、1977年が2地点、1978年が6地点、1979年が3地点であったと報告している。今回の調査では、東濃地域と大垣地域はもとより岐阜地域と可茂・益田地域にまで生息分布範囲が拡大し、11市10郡の46地点の池沼または人工湖と18の河川で、生息の確認された市町村数が約3倍、生息水域の件数が約4倍に拡大した。また、その移植経過等については立川<sup>1)</sup>の報告と同様、いずれの場合にも移植の記録はなく、何者かの無計画な移植によるものか、または水路を通じて農業

溜池あるいはダム湖と河川に生息の分布範囲を拡大したと考えられた。これらの既存の生息水域における漁獲量および生息量は、地域によって増加と減少の相反する傾向が見られるが、その実態は明らかではない。

今後、このような既生息水域はもとより、未生息水域の有用魚種の保護管理は重要であり、その対策と、また、外来魚の有効利用も含めて検討しなければならない。

#### 文 献

- 1) 立川 月、田口錠次、1980;岐阜県におけるオオクチバス *Micropterus salmoides* の分布の実態、岐水試研報、No.25、17-21。